

知的障害者グループホーム世話人の「関係支援」業務の実態 ：山陰両県グループホーム世話人アンケート調査報告

1 . 調査概要

(1) 調査の目的

グループホームにおける世話人の業務の現状と問題点を把握し、グループホーム世話人の業務のよりよいあり方と、利用者の一層充実した生活の実現への基礎資料とする。

(2) 調査対象

島根・鳥取両県の全知的障害者グループホーム 137 施設

(3) 調査期間

2006 年 12 月 11 日 (月) ~ 2007 年 1 月 17 日 (水)

(4) 調査方法

郵送による配布・回収

(5) 回収結果

回収数 81 件 (回収率 59.1%) 内有効回収数 78 件 (有効回収率 56.9%)

(6) 報告の見方

報告書の n は回答者数を表す。

回答は回答者数を基数とした百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入したため、構成比の合計が 100.0%にならない場合がある。

2 つ以上の複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100.0%を超える。

集計の図表では、入力 of 都合上回答の選択肢の表現を短縮している場合がある。

文中の問の番号は、末尾に付した調査票の番号と対応している。

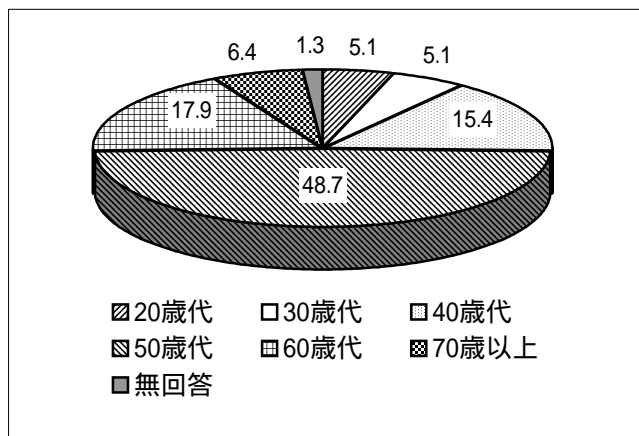
2. 調査結果

(1) 回答者(世話人)とグループホームの属性

回答者の年齢 (n=78)

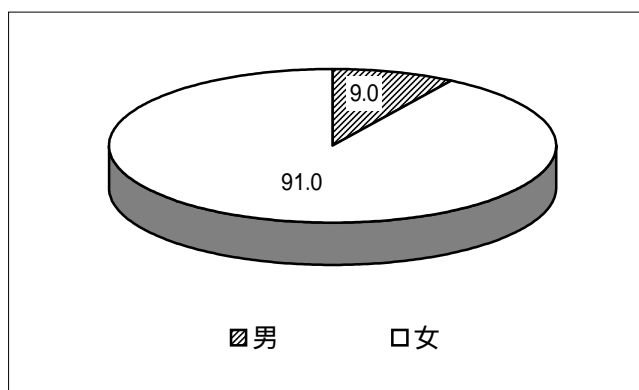
回答者の年齢は、「50歳代」が半数近くを占め、次いで「60歳代」が17.9%、「40歳代」が15.4%などと続いている。

平均年齢は53.5歳で、最年少は25歳、最年長は75歳である。



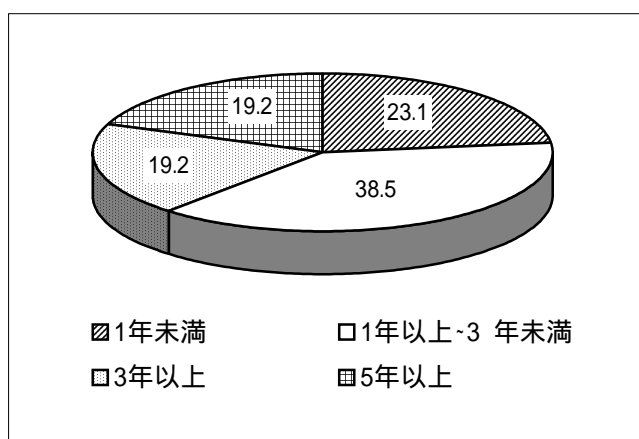
回答者の性別 (n=78)

回答者の性別は、女性が9割強を占める。



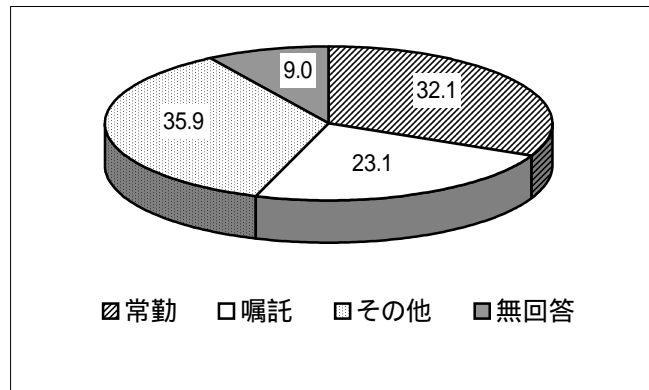
世話人経験年数 (n=78)

回答者の世話人経験年数(他グループホームでの経験を含む)は、「1年以上~3年未満」が38.5%、次いで「1年未満」が23.1%と、比較的経験年数の短い人が6割強を占める。



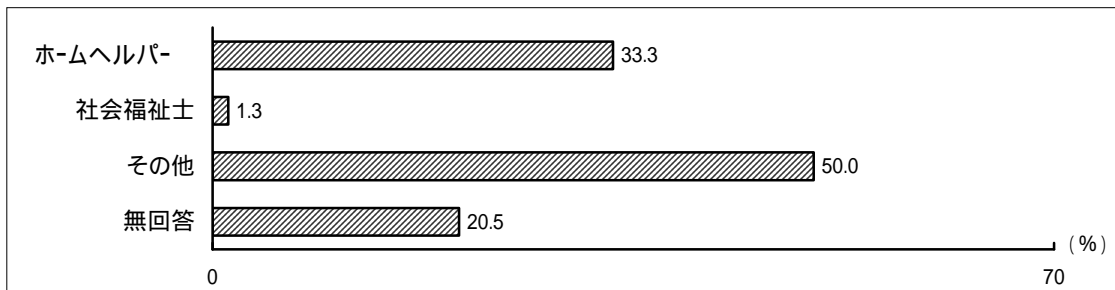
雇用形態 (n=78)

回答者の雇用形態は、パート等の「その他」が 35.9%、「常勤」が 32.1%、「嘱託」が 23.1%となっている。



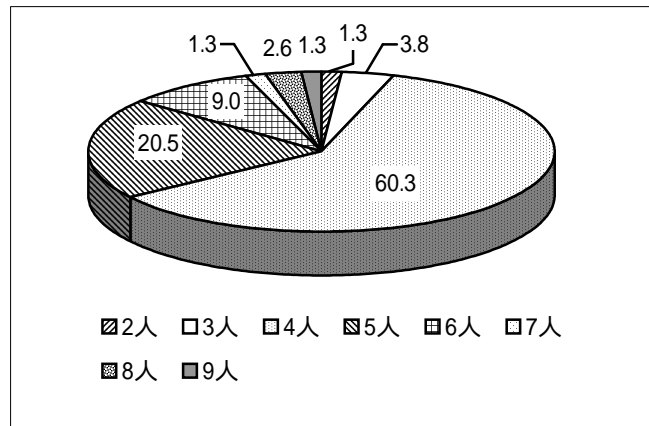
取得資格 (n=78、複数回答)

回答者の取得資格は、「その他」が半数、「ホームヘルパー (1~3 級)」が 3 分の 1 である。なお、「介護福祉士」と回答した人はいない。



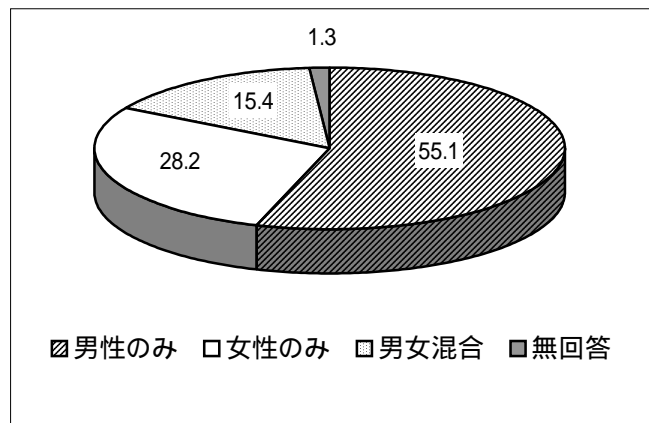
グループホーム定員 (n=78)

回答者が勤務するグループホームの定員は、「4 人」が 6 割と最も多く、次いで「5 人」が 2 割などとなっており、平均は 4.5 人である。



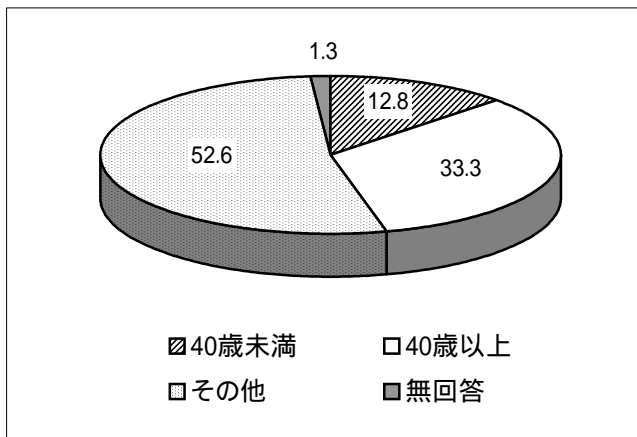
入居者の性別 (n=78)

グループホームの入居者の性別は、「男性のみ」が過半数を占め、「女性のみ」28.2%、「男女混合」が 15.4%となっている。



入居者の年齢 (n=78)

グループホームの入居者の年齢は、さまざまな年齢の人が入居している「その他」が過半数を占め、「全員 40 歳以上」が 3 分の 1、「全員 40 歳未満」が 1 割強となっている。

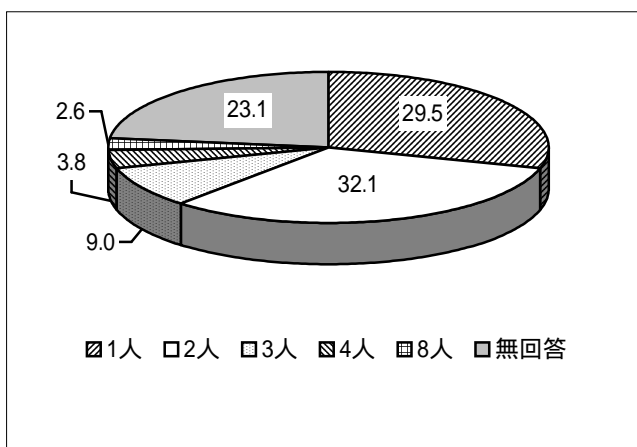


バックアップ施設職員の数

グループホームのバックアップ施設職員の数は、「10 人未満」が約 3 分の 1、「30 人 ~ 39 人」、「20 人 ~ 29 人」がそれぞれ 1 割弱となっている。

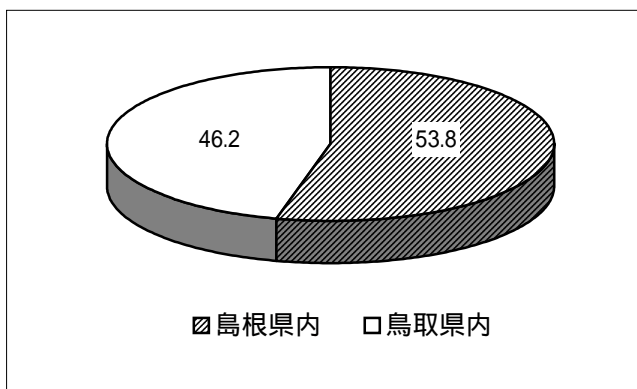
	10 未	10 ~ 19	20 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~ 69	70 以	無回答	サンプル数
n	25	1	6	7	2	1	1	5	30	78
%	32.1	1.3	7.7	9.0	2.6	1.3	1.3	6.4	38.5	100.0

バックアップ施設職員の内、回答者が勤務するグループホームのバックアップ担当の人数は、「2 人」が 3 割強、「1 人」が約 3 割となっており、平均は 2.4 人である。



グループホーム所在地 (n=78)

グループホームの所在地は、「島根県内」が 53.8%、「鳥取県内」が 46.2% である。

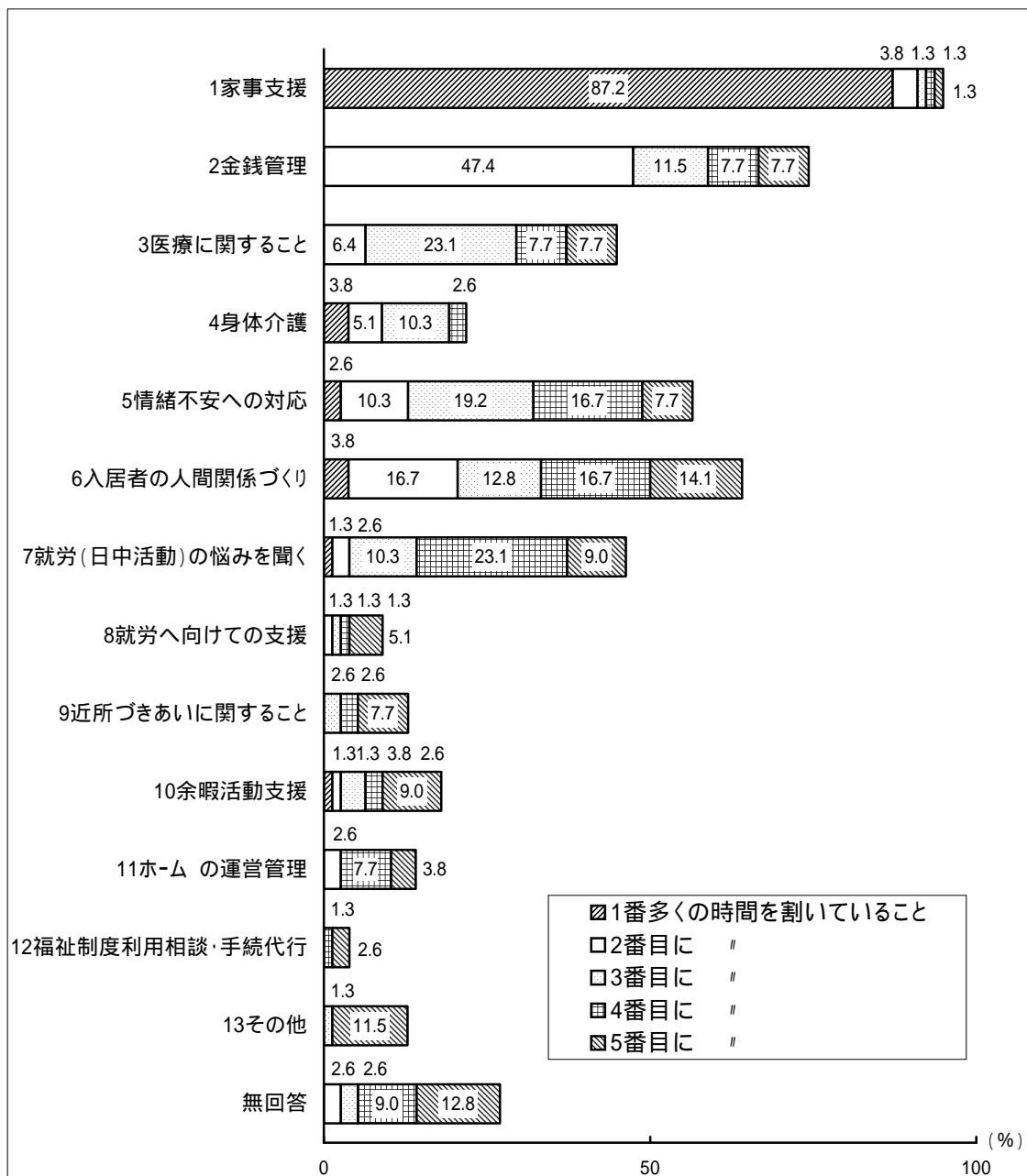


(2) 回答者の日常の業務全体について

【問1-1】現在、実際に多くの時間を割いて行っている業務(～位各 n=78)

回答者が現在、実際に多くの時間を割いて行っている業務の上位5つをたずねたところ、一番多くの時間を割いている業務は「1家事支援(食事づくり、ゴミ出し等)」(累計94.9%)、二番目は「2金銭管理」(累計74.3%)、三番目は「6入居者の人間関係づくり」(累計64.1%)、四番目は「5情緒不安定への対応」(累計56.5%)、五番目は「7就労(日中活動)の悩みを聞く」(累計46.3%)、次いで、ほぼ同じ割合で「3医療に関すること」(累計44.9%)があがっている。

このことから、家事支援に追われながら、金銭の管理、入居者の人間関係づくりに心を配り、不安や悩みの相談相手になっている世話人の日常がうかがえる。



【問1-1】現在、実際に多くの時間を割いて行っている業務

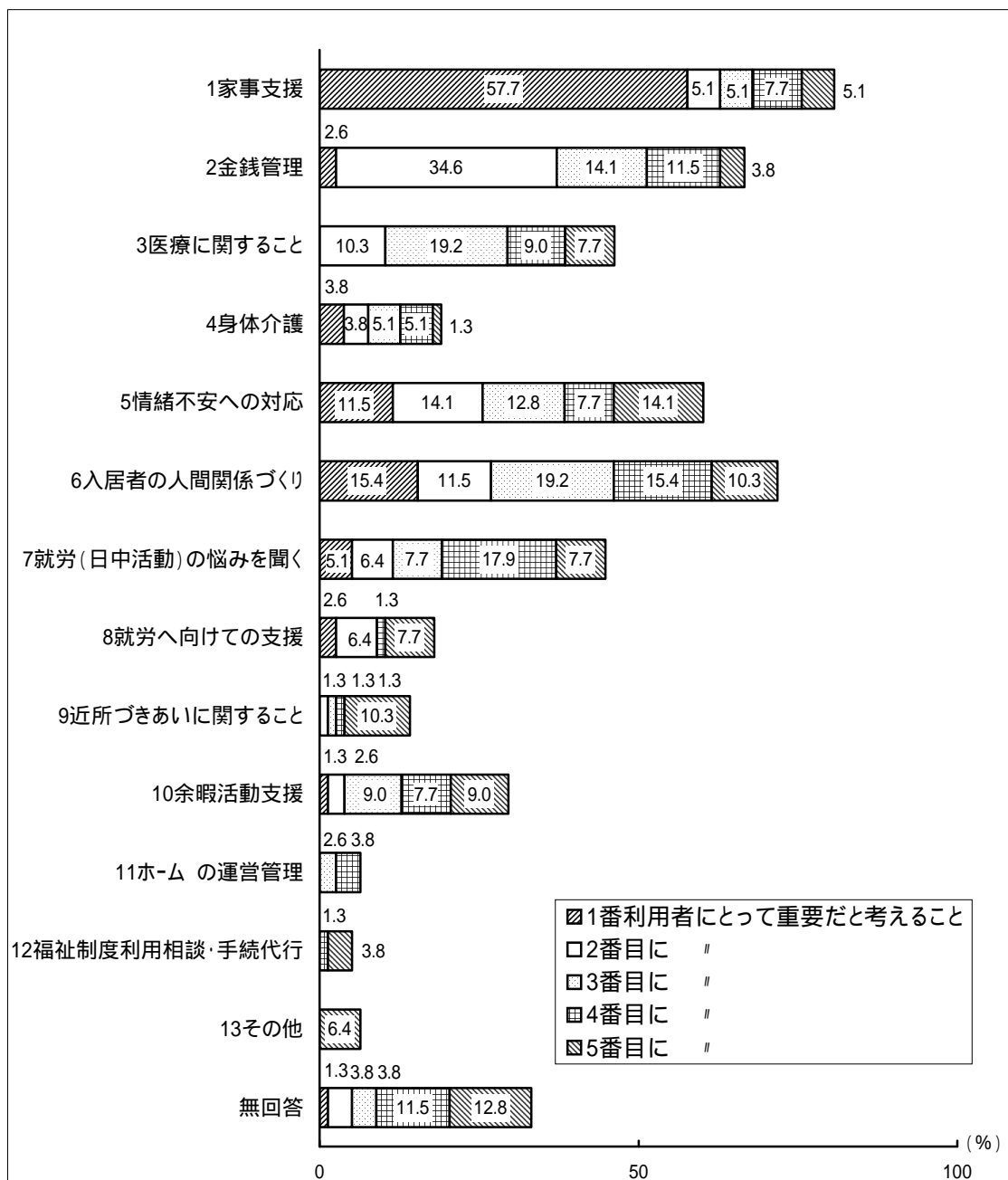
(上段：n、下段：%)

	位	位	位	位	位	累計
1 家事支援	68 87.2	3 3.8	1 1.3	1 1.3	1 1.3	74 94.9
2 金銭管理	0 0.0	37 47.4	9 11.5	6 7.7	6 7.7	58 74.3
3 医療に関する こと	0 0.0	5 6.4	18 23.1	6 7.7	6 7.7	35 44.9
4 身体介護	3 3.8	4 5.1	8 10.3	2 2.6	0 0.0	17 21.8
5 情緒不安への 対応	2 2.6	8 10.3	15 19.2	13 16.7	6 7.7	44 56.5
6 入居者の人間 関係づくり	3 3.8	13 16.7	10 12.8	13 16.7	11 14.1	50 64.1
7 就労・活動の 悩みを聞く	1 1.3	2 2.6	8 10.3	18 23.1	7 9.0	36 46.3
8 就労へ向けて の支援	0 0.0	1 1.3	1 1.3	1 1.3	4 5.1	7 9.0
9 近所づきあい に関すること	0 0.0	0 0.0	2 2.6	2 2.6	6 7.7	10 12.9
10 余暇活動支援	1 1.3	1 1.3	3 3.8	2 2.6	7 9.0	14 18.0
11 ホームの管理 運営	0 0.0	2 2.6	0 0.0	6 7.7	3 3.8	11 14.1
12 福祉制度利用 相談・手続代行	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	2 2.6	3 3.9
13 その他	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0	9 11.5	10 12.8
無回答	0 0.0	2 2.6	2 2.6	7 9.0	10 12.8	21 27.0
サンプル数	78 100.0	78 100.0	78 100.0	78 100.0	78 100.0	390 500.0

【問1-2】世話人業務の中で、利用者にとって重要だと考えている業務（～位各n=78）

回答者が世話人業務の中で、利用者にとって重要だと考えている業務の上位5つをたずねたところ、一番重要だと考えている業務は「1家事支援（食事づくり、ゴミ出し等）」（累計80.6%）、二番目は「6入居者の人間関係づくり」（累計71.8%）、三番目は「2金銭管理」（累計66.6%）、四番目は「5情緒不安への対応」（累計60.2%）、五番目は「3医療に関すること」（累計46.2%）、次いで、ほぼ同じ割合で「7就労（日中活動）の悩みを聞く」（累計44.8%）があがっている。

利用者にとって家事支援や金銭管理は必要としながらも、入居者の人間関係づくり、メンタル面での支援が重要と考えられていると推察される。



【問1-2】利用者にとって重要だと考えている業務

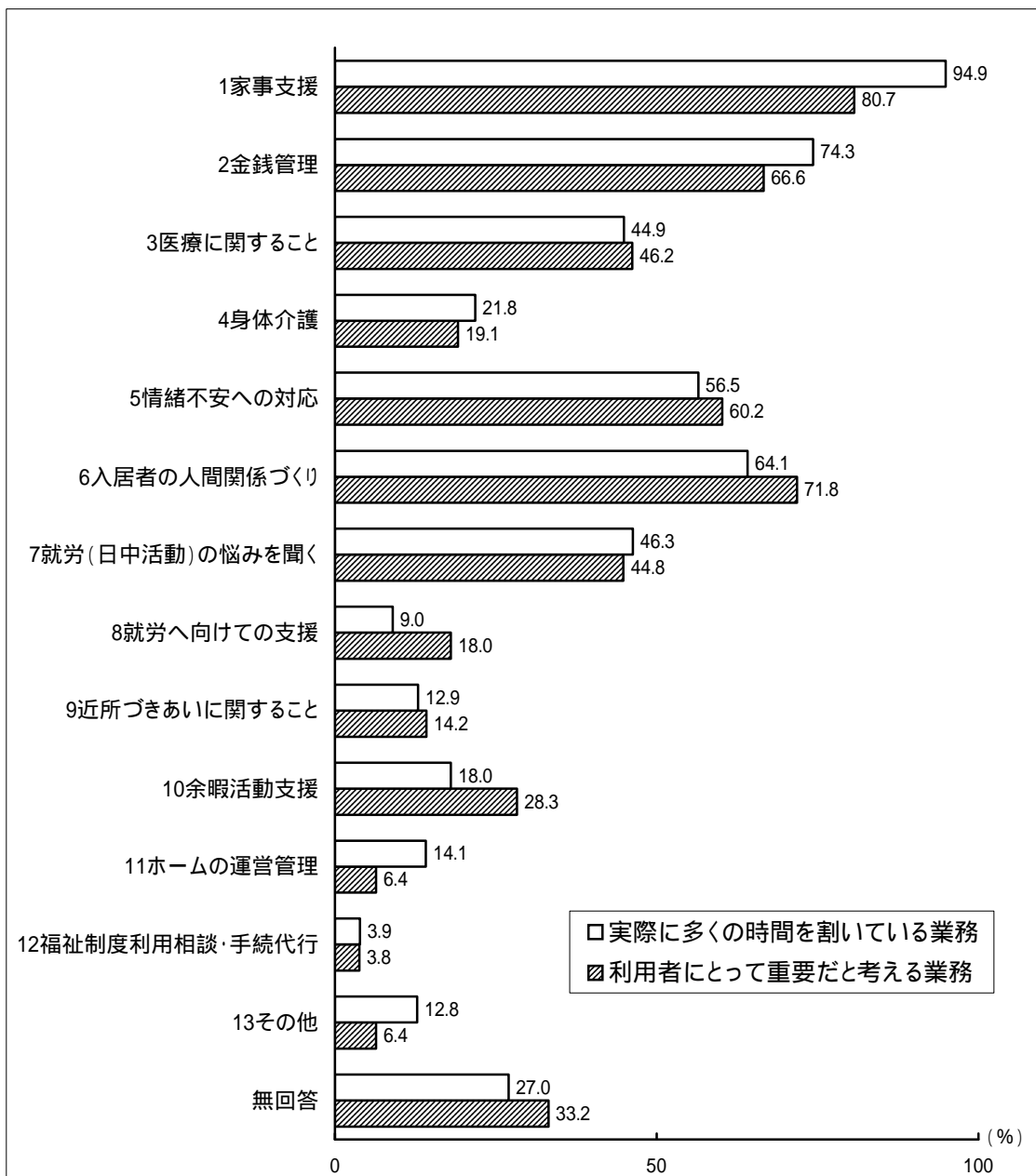
(上段：n、下段：%)

	位	位	位	位	位	累計
1 家事支援	45 57.7	4 5.1	4 5.1	6 7.7	4 5.1	63 80.7
2 金銭管理	2 2.6	27 34.6	11 14.1	9 11.5	3 3.8	52 66.6
3 医療に関する こと	0 0.0	8 10.3	15 19.2	7 9.0	6 7.7	36 46.2
4 身体介護	3 3.8	3 3.8	4 5.1	4 5.1	1 1.3	15 19.1
5 情緒不安への 対応	9 11.5	11 14.1	10 12.8	6 7.7	11 14.1	47 60.2
6 入居者の人間 関係づくり	12 15.4	9 11.5	15 19.2	12 15.4	8 10.3	56 71.8
7 就労・活動の 悩みを聞く	4 5.1	5 6.4	6 7.7	14 17.9	6 7.7	35 44.8
8 就労へ向けて の支援	2 2.6	5 6.4	0 0.0	1 1.3	6 7.7	14 18.0
9 近所づきあい に関すること	0 0.0	1 1.3	1 1.3	1 1.3	8 10.3	11 14.2
10 余暇活動支援	0 0.0	2 2.6	7 9.0	6 7.7	7 9.0	22 28.3
11 ホームの管理 運営	0 0.0	0 0.0	2 2.6	3 3.8	0 0.0	5 6.4
12 福祉制度利用 相談・手続代行	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.8	3 3.8
13 その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 6.4	5 6.4
無回答	1 1.3	3 3.8	3 3.8	9 11.5	10 12.8	26 33.2
サンプル数	78 100.0	78 100.0	78 100.0	78 100.0	78 100.0	390 500.0

実際に多くの時間を割いて行っている業務と、利用者にとって重要だと考えている業務の比較

実際に多くの時間を割いて行っている業務の上位の業務が、利用者にとって重要だと考えている業務でも上位にあがっているが、その順位と割合に差が表れている。

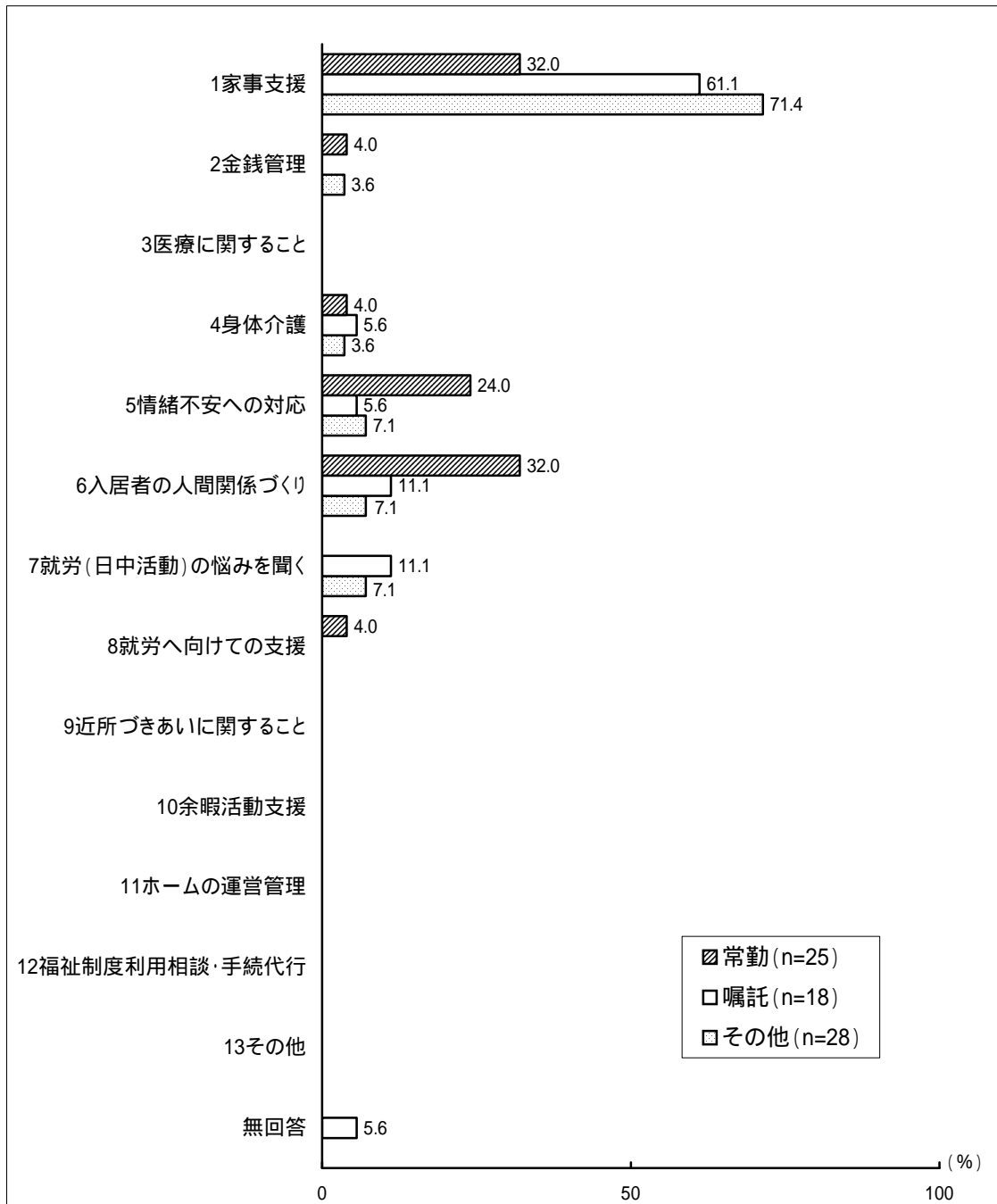
その差をみると、実際の業務の方が重要だと考える業務を上回っているのは「1 家事支援（食事づくり、ゴミ出し等）」（14.2ポイント）、「2 金銭管理」と「11 ホームの運営管理」（各7.7ポイント）など。重要だと考える業務の方が実際の業務を上回っているのは「10 余暇活動支援」（10.3ポイント）、「8 就労へ向けての支援」（9.0ポイント）、「6 入居者の人間関係づくり」（7.7ポイント）、「5 情緒不安への対応」（3.7ポイント）などとなっている。



雇用形態×利用者にとって一番重要だと考えている業務

回答者の雇用形態と利用者にとって一番重要だと考えている業務は関連している。

雇用形態が「常勤」の人では一番重要だと考えている業務が「1家事支援（食事づくり、ゴミ出し等）」と「6入居者の人間関係づくり」、
「5情緒不安への対応」の3つに分散しているのに対し、「嘱託」、「その他」の人では「1家事支援」に集中する傾向を示している。

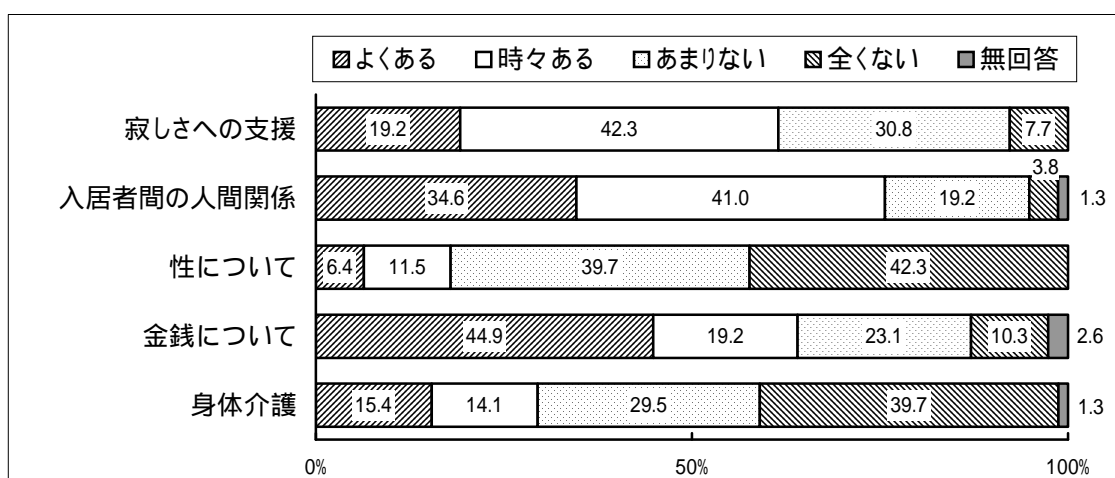


(3) 利用者の抱える問題とそれへの支援者について

【問2-1】利用者のグループホーム内での生活に関する支援の頻度 (n=78)

利用者のグループホーム内での生活に関する5項目についての回答者の支援の頻度をたずねたところ、「よくある」は 金銭について(44.9%)、入居者間の人間関係(34.6%)が高く、寂しさへの支援、入居者間の人間関係、金銭については「時々ある」を合わせた「ある(計)」が6割を超え、世話人の支援頻度が高くなっている。

一方、「全くない」は 性について(42.3%)、身体介護(39.7%)で、「あまりない」を合わせた「ない(計)」が「ある(計)」を大きく上回っており、世話人の支援頻度は低くなっている。



(上段：n、下段：%)

	よくある	時々ある	あまりない	全くない	無回答	サンプル数
寂しさへの支援	15	33	24	6	0	78
	19.2	42.3	30.8	7.7	0.0	100.0
	61.5 (ある計)		38.5 (ない計)			
入居者間の人間関係	27	32	15	3	1	78
	34.6	41.0	19.2	3.8	1.3	100.0
	75.6 (ある計)		23.0 (ない計)			
性について	5	9	31	33	0	78
	6.4	11.5	39.7	42.3	0.0	100.0
	17.9 (ある計)		82.0 (ない計)			
金銭について	35	15	18	8	2	78
	44.9	19.2	23.1	10.3	2.6	100.0
	64.1 (ある計)		33.4 (ない計)			
身体介護	12	11	23	31	1	78
	15.4	14.1	29.5	39.7	1.3	100.0
	29.5 (ある計)		69.2 (ない計)			

【問2-2】問2-1の5項目に関して主に対応（支援）している人（複数回答2、n=78）

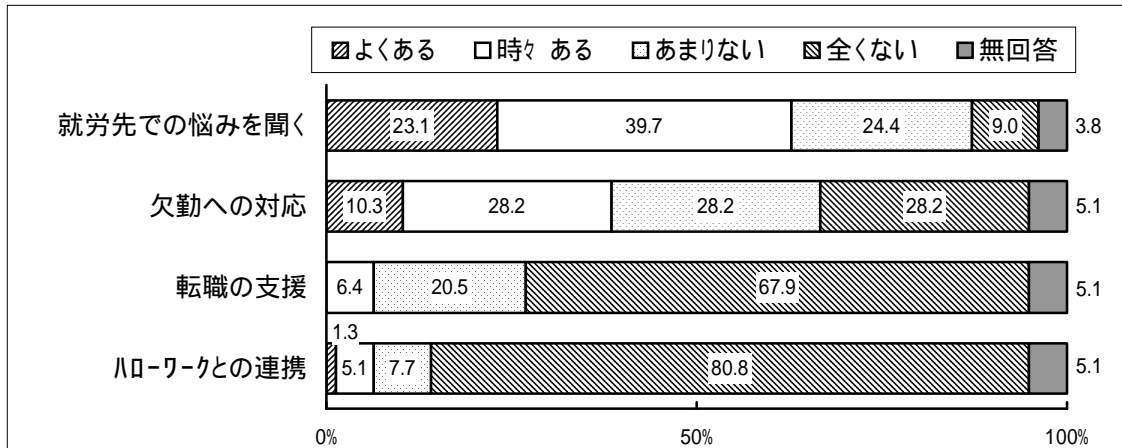
問2-1の5項目に関して主に対応（支援）している人をたずねたところ、いずれの項目とも「1世話人」と「2バックアップ施設職員」が多くあがっている。中でも「1世話人」は、寂しさへの支援では半数、入居者間の人間関係では過半数、性については「バックアップ施設職員」と同割合で23.1%、金銭については46.2%、身体介護では38.5%となっており、グループホーム内での生活に関しては主に世話人が対応（支援）していると推察できる。

（上段：n、下段：%）

	寂しさへの支	人間関係	性について	金銭について	身体介護
1 世話人	39 50.0	43 55.1	18 23.1	36 46.2	30 38.5
2 バックアップ施設職員	18 23.1	19 24.4	18 23.1	24 30.8	10 12.8
3 家族	3 3.8	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
4 利用者の友人	2 2.6	0 0.0	2 2.6	1 1.3	1 1.3
5 行政機関職員	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
6 地域生活支援センター等コーディネータ	0 0.0	1 1.3	2 2.6	2 2.6	3 3.8
7 社会福祉協議会職員	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0
8 近隣住民	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
9 就労（日中活動）先の職員	6 7.7	6 7.7	9 11.5	6 7.7	8 10.3
10 知的障害者相談員	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
11 特にいない	1 1.3	0 0.0	9 11.5	0 0.0	5 6.4
12 その他	2 2.6	1 1.3	5 6.4	1 1.3	6 7.7
無回答	7 9.0	7 9.0	15 19.2	7 9.0	15 19.2
サンプル数	78 100.0	78 100.0	78 100.0	78 100.0	78 100.0

【問3-1】利用者の就労（日中活動）に関する支援の頻度（n=78）

利用者の就労（日中活動）に関する4項目についての回答者の支援の頻度をたずねたところ、就労（日中活動）先での悩みを聞くについては、【問1-1】で実際に多くの時間を割いて行っている業務の五番目にあがっているように、「よくある」と「時々ある」を合わせた「ある（計）」が6割を超えている。しかし、その他の項目では欠勤への対応が4割弱となっているものの、転職の支援とハローワークとの連携では1割に満たない。



（上段：n、下段：％）

	よくある	時々ある	あまりない	全くない	無回答	サンプル数
就労（日中活動）先での悩みを聞く	18	31	19	7	3	78
	23.1	39.7	24.4	9.0	3.8	100.0
	62.8（ある計）		33.4（ない計）			
欠勤への対応	8	22	22	22	4	78
	10.3	28.2	28.2	28.2	5.1	100.0
	38.5（ある計）		56.4（ない計）			
転職の支援	0	5	16	53	4	78
	0.0	6.4	20.5	67.9	5.1	100.0
	6.4（ある計）		88.4（ない計）			
ハローワークとの連携	1	4	6	63	4	78
	1.3	5.1	7.7	80.8	5.1	100.0
	6.4（ある計）		88.5（ない計）			

【問3-2】問3-1の4項目に関して主に対応(支援)している人(n=78)

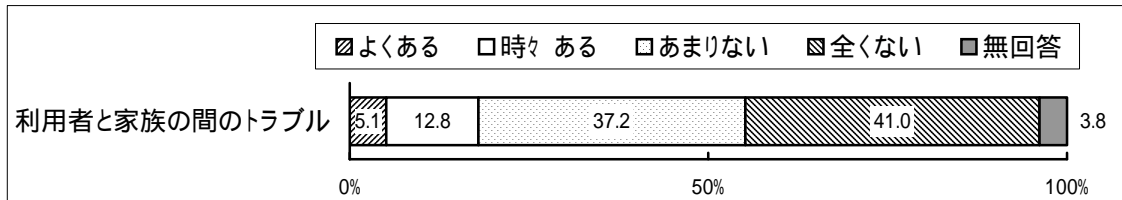
問3-1の4項目に関して主に対応(支援)している人をたずねたところ、就労(日中活動)先での悩みを聞くと 欠勤への対応では「1世話人」が、転職の支援とハローワークとの連携では「2バックアップ施設職員」が、それぞれ4~5割と多くあがっている。

(上段：n、下段：%)

	就労先の悩みを聞く	欠勤への対応	転職の支援	ハローワークとの連携
1 世話人	37 47.4	31 39.7	1 1.3	3 3.8
2 バックアップ施設職員	21 26.9	20 25.6	39 50.0	33 42.3
3 家族	1 1.3	1 1.3	1 1.3	1 1.3
4 利用者の友人	1 1.3	1 1.3	2 2.6	2 2.6
5 行政機関職員	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
6 地域生活支援センター等コーディネータ	0 0.0	1 1.3	4 5.1	4 5.1
7 社会福祉協議会職員	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
8 近隣住民	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
9 就労(日中活動)先の職員	9 11.5	13 16.7	9 11.5	11 14.1
10 知的障害者相談員	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
11 特にいない	0 0.0	0 0.0	5 6.4	4 5.1
12 その他	2 2.6	3 3.8	3 3.8	4 5.1
無回答	7 9.0	8 10.3	14 17.9	16 20.5
サンプル数	78 100.0	78 100.0	78 100.0	78 100.0

【問4-1】利用者と家族との間のトラブルに関して、回答者が対応することの有無（n=78）

利用者と家族との間のトラブルに関して、回答者が対応することについては、「全くない」と「あまりない」がそれぞれ4割前後で、「ない(計)」が8割弱となっており、利用者と家族との間のトラブルに関して世話人が対応することは少ないと推察される。

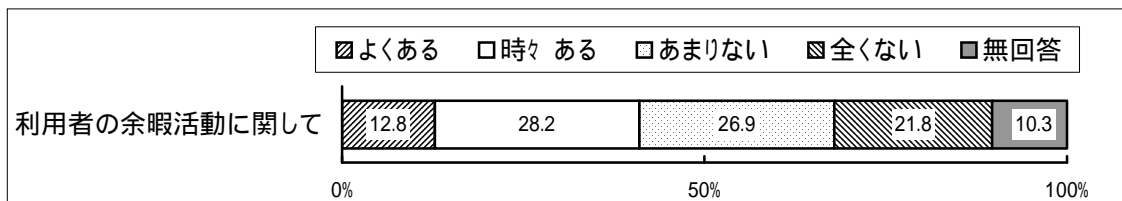


(上段：n、下段：%)

	よくある	時々ある	あまりない	全くない	無回答	サンプル数
利用者とのトラブルに関して、対応することが	4	10	29	32	3	78
	5.1	12.8	37.2	41.0	3.8	100.0
	17.9 (ある計)		78.2 (ない計)			

【問5-1】利用者の余暇活動に関して、回答者が対応することの有無（n=78）

利用者の余暇活動（行事の紹介等を含む）に関して、回答者が対応することについては、「よくある」(12.8%)と「時々ある」(28.2%)を合わせた「ある(計)」は4割強となっている。



(上段：n、下段：%)

	よくある	時々ある	あまりない	全くない	無回答	サンプル数
利用者の余暇活動に関して、対応することが	10	22	21	17	8	78
	12.8	28.2	26.9	21.8	10.3	100.0
	41.0 (ある計)		48.7 (ない計)			

【問4-2】利用者と家族との間のトラブルに関して、主に対応（支援）している人（複数回答2、n=78）

利用者と家族との間のトラブルに関して主に対応（支援）している人、2人をたずねたところ、「2バックアップ施設職員」（71.8%）と「1世話人」（35.9%）があがっている。以下、「就労（日中活動）先の職員」（16.7%）と「地域生活支援センター等のコーディネーター」（12.8%）などとなっている。

【問5-2】利用者の余暇活動に関して、主に対応（支援）している人（複数回答2、n=78）

利用者の余暇活動に関して主に対応（支援）している人、2人をたずねたところ、「2バックアップ施設職員」（57.7%）と「1世話人」（44.9%）があがっている。以下、「就労（日中活動）先の職員」（25.6%）と「地域生活支援センター等のコーディネーター」（12.8%）などとなっている。

問4-2、問5-2 主に対応（支援）している人（複数回答：2人）

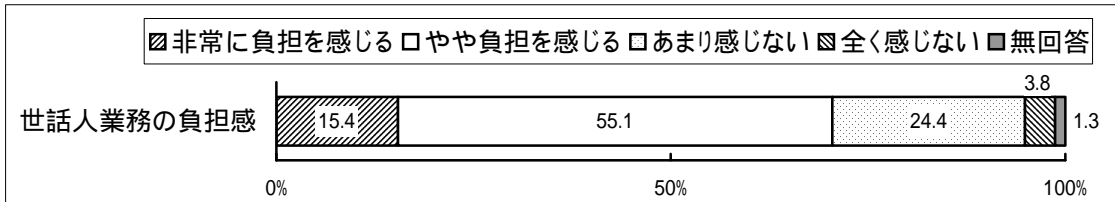
（上段：n、下段：%）

	利用者と家族のトラブルへの対応	利用者の余暇活動への対応
1 世話人	28 35.9	35 44.9
2 バックアップ施設職員	56 71.8	45 57.7
3 家族	2 2.6	7 9.0
4 利用者の友人	1 1.3	3 3.8
5 行政機関職員	4 5.1	0 0.0
6 地域生活支援センター等コーディネータ	10 12.8	10 12.8
7 社会福祉協議会職員	2 2.6	1 1.3
8 近隣住民	0 0.0	3 3.8
9 就労（日中活動）先の職員	13 16.7	20 25.6
10 知的障害者相談員	1 1.3	1 1.3
11 特にいない	4 5.1	3 3.8
12 その他	4 5.1	11 14.1
無回答	11 14.1	4 5.1
累計	136 174.4	143 183.2

(4) 世話人業務の負担感とそれへの支援に関して

【問6】世話人業務の負担感 (n=78)

世話人業務の負担感についてたずねたところ、「非常に負担を感じる」が15.4%で、「やや負担を感じる」を合わせた「負担を感じる(計)」が7割となっている。

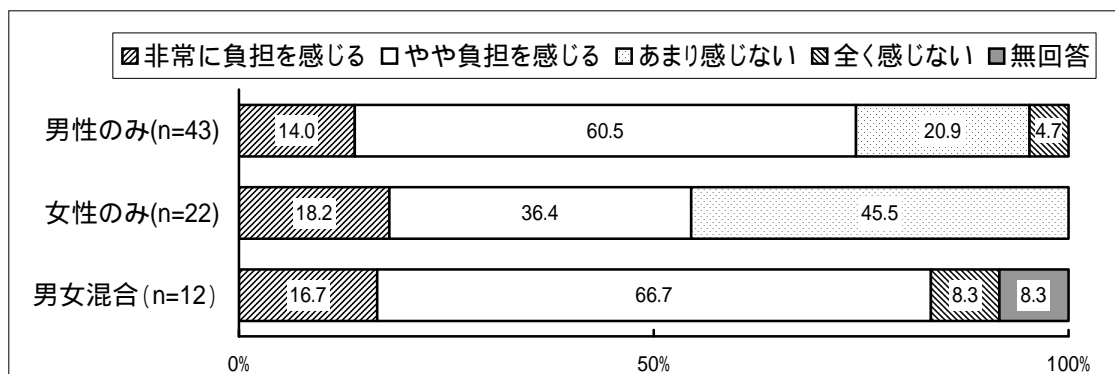


(上段：n、下段：%)

	非常に感じ	やや感じる	あまり感じな	全く感じない	無回答	サンプル数
世話人業務の負担感	12	43	19	3	1	78
	15.4	55.1	24.4	3.8	1.3	100.0
	70.5% (ある計)		28.2% (ない計)			

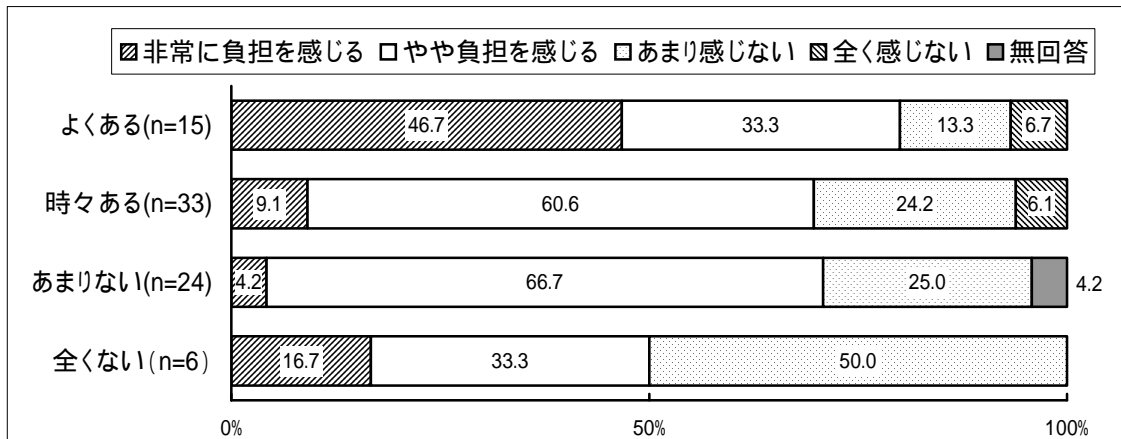
入居者性別 × 世話人業務の負担感

回答者が勤務するグループホームの入居者性別と世話人業務の負担感に関連している。世話人業務の負担感「負担を感じる(計)」の割合は、入居者が「男女混合」では8割強、「男性のみ」では7割強、「女性のみ」では過半数となっており、入居者が「女性のみ」の場合には世話人業務の負担感が低い。



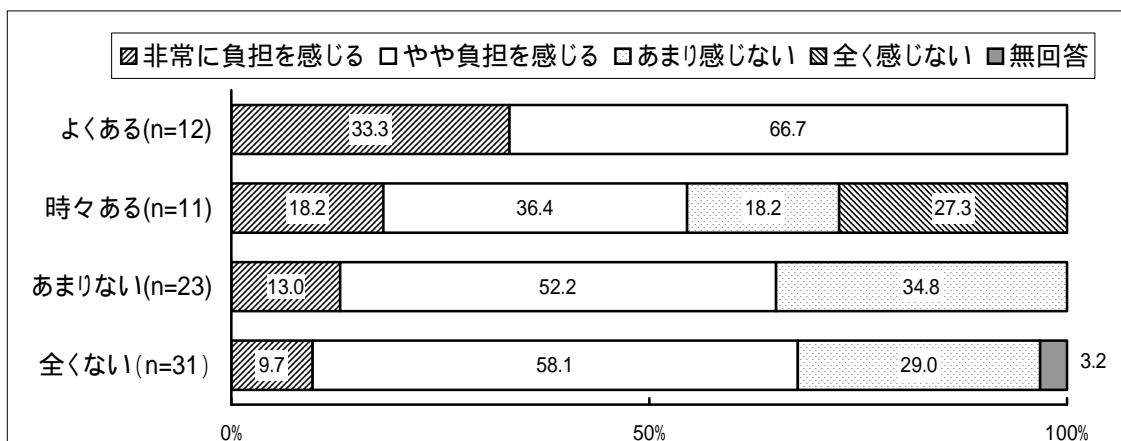
利用者のグループホーム内での生活の問題 寂しさへの支援×世話人業務の負担感

利用者のグループホーム内での生活の問題 寂しさへの支援の頻度と世話人業務の負担感に関連している。寂しさへの支援が「よくある」と回答した人では、「非常に負担を感じる」が46.7%、「負担を感じる（計）」が8割と高く、寂しさへの支援の頻度が高いほど世話人業務の負担感が高くなる傾向を示している。



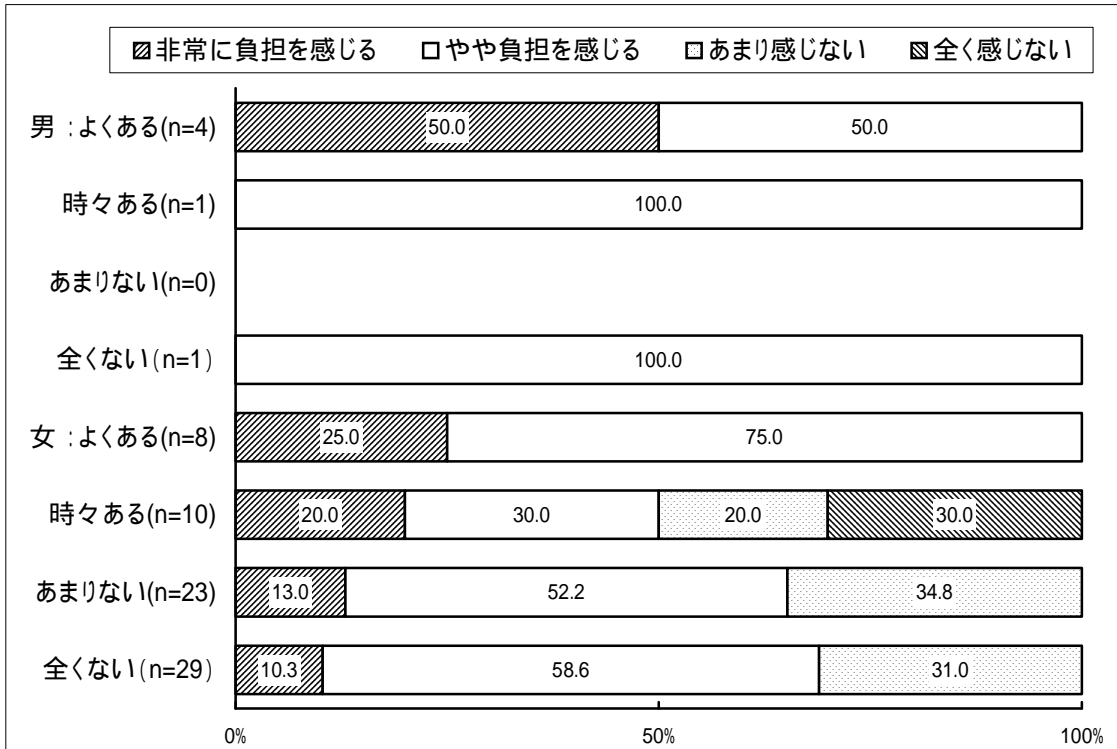
利用者のグループホーム内での生活の問題 身体介護×世話人業務の負担感

利用者のグループホーム内での生活の問題 身体介護の頻度と世話人業務の負担感に関連している。身体介護が「よくある」と回答した人では、全ての人々が「負担を感じる（計）」と答えており、身体介護の頻度が高いほど世話人業務の負担感が高くなる傾向がみられる。



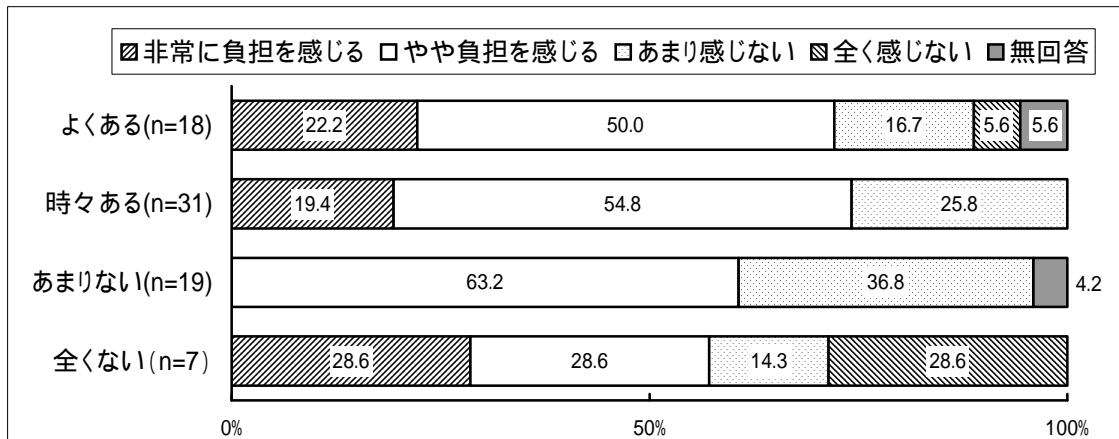
回答者の性別・利用者のグループホーム内での生活の問題 身体介護×世話人業務の負担感

回答者の性別と利用者のグループホーム内での生活の問題 身体介護の頻度と世話人業務の負担感は関連している。回答者の9割強が女性であるため単純に比較はできないが、男性では世話人業務の負担を感じないと回答した人はいない。女性では身体介護が「よくある」ではすべての人が「負担を感じる(計)」となっており、身体介護の頻度が高いほど「非常に負担を感じる」の割合が高い傾向を示している。



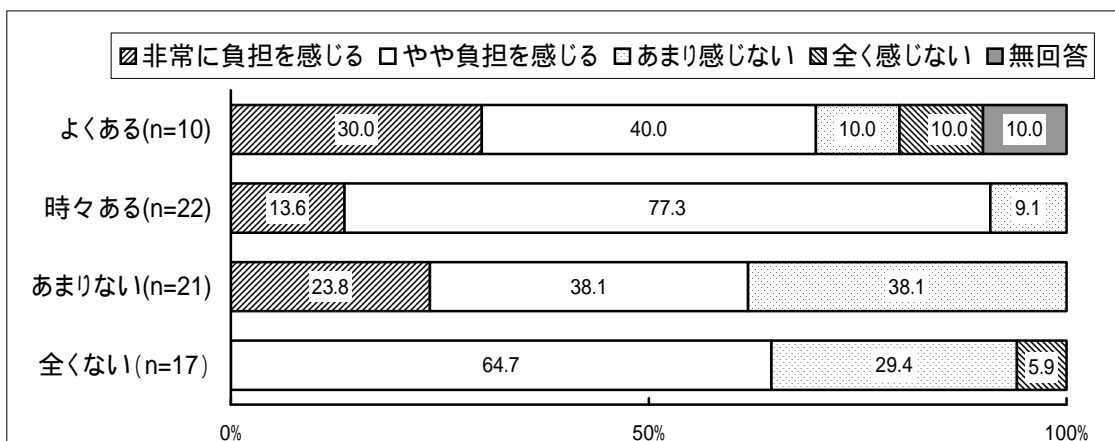
利用者の就労に関する問題 就労(日中活動)先での悩みを聞く×世話人業務の負担感

利用者の就労に関する問題 就労(日中活動)先での悩みを聞く頻度と世話人業務の負担感は関連している。就労(日中活動)先での悩みを聞くことが「よくある」、「時々ある」と回答した人では「負担を感じる(計)」が7割を超え、就労(日中活動)先での悩みを聞く頻度が高いほど世話人業務の負担感が高くなる傾向がみられる。



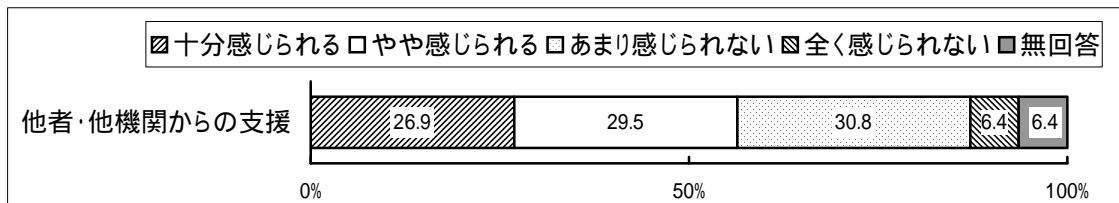
利用者の余暇活動への対応×世話人業務の負担感

利用者の余暇活動への対応の頻度と世話人業務の負担感に関連している。利用者の余暇活動への対応の頻度が「よくある」、「時々ある」と回答した人では「負担を感じる(計)」が7~9割と高く、利用者の余暇活動への対応の頻度が高いほど世話人業務の負担感が高くなる傾向がみられる。



【問7】世話人業務を行うに当たって、他者・他機関から支援を受けていると感じますか

世話人業務を行うに当たって、他者・他機関から支援を受けていると感じるかどうかをたずねたところ、「十分感じられる」と「やや感じられる」がそれぞれ3割弱と「感じられる(計)」が過半数を占めるものの、「あまり感じられない」も3割あり、「感じられない(計)」は4割近くとなっている。

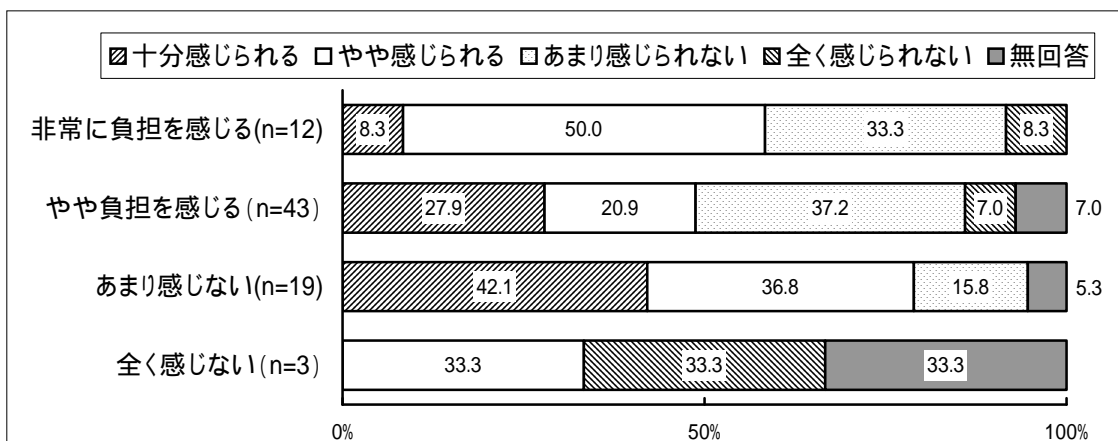


(上段：n、下段：%)

	十分感じられる	やや感じられる	あまり感じられない	全く感じられない	無回答	サンプル数
他者・他機関から支援を受けていると	21 26.9	23 29.5	24 30.8	5 6.4	5 6.4	78 100.0
	56.4% (ある計)		37.2% (ない計)			

世話人業務の負担感×他者・他機関からの支援を受けているかどうか

世話人業務の負担感と他者・他機関からの支援を受けているかどうかは関連している。他者・他機関からの支援を「十分感じられる」と回答した人は、世話人業務の負担感を「あまり感じない」では4割強、「やや負担を感じる」では3割弱、「非常に負担を感じる」では1割弱となっており、他者・他機関からの支援を受けていると感じている人ほど世話人業務の負担感が低い傾向がみられる。



【問8】世話人業務を行うなかで、回答者の支えとなっている人・機関(複数回答2、n=78)

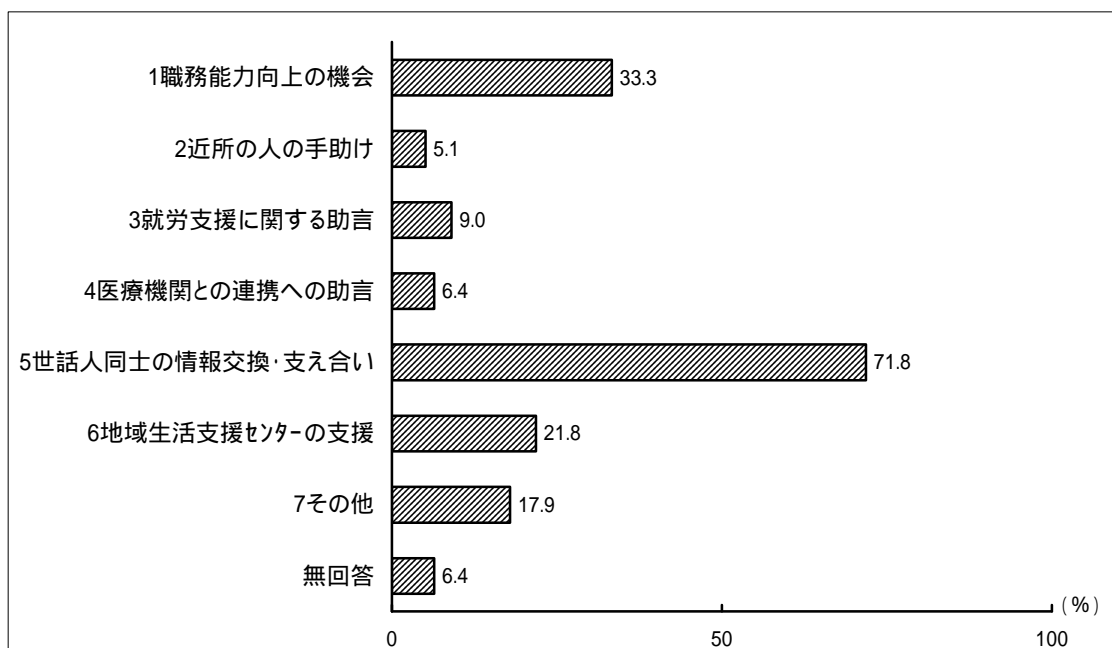
世話人業務を行うなかで、現在、回答者の支えになっている人・機関、2人をたずねたところ、「2バックアップ施設職員」が78.2%と最も多くあがっており、次いで、「1世話人」(28.2%)、「9就労(日中活動)先の職員」(19.2%)、「6地域生活支援センター等のコーディネーター」(16.7%)などと続いている。

(上段：n、下段：%)

1 世話人	22 28.2	8 近隣住民	2 2.6
2 バックアップ施設職員	61 78.2	9 就労(日中活動)先の職員	15 19.2
3 家族	5 6.4	10 知的障害者相談員	0 0.0
4 利用者の友人	0 0.0	11 特にいない	9 11.5
5 行政機関職員	0 0.0	12 その他	12 15.4
6 地域生活支援センター等コーディネーター	13 16.7	無回答	3 3.8
7 社会福祉協議会職員	2 2.6	累計	144 184.6

【問9】回答者自身に必要なと思われる支援や助言

回答者自身に必要なと思われる支援や助言の内容2つをたずねたところ、「5世話人同士の情報交換・支え合い」が71.8%と最も多く、次いで「1職務能力の向上の機会(研修等)」が33.3%、以下、「6地域生活支援センター(生活相談等)の支援」21.8%、「7その他」17.9%などと続いている。



2006年12月11日

知的障害者グループホーム世話人の皆さま

島根大学 法文学部 福祉社会教室 主任 山本 眞一
山陰グループホーム・スタッフ研修会 会長 山本 剛志

ごあいさつと調査に関するお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私ども、島根大学 法文学部 福祉社会教室は、地域貢献・連携などを通じて山陰地域における福祉活動・教育の拠点となることを目標の1つとしています。その一環として、「山陰グループホーム・スタッフ研修会（山陰両県の障害者福祉従事者で構成しています）」と協力して、知的障害者グループホーム世話人の業務向上を目指した活動をしております。

この度、活動の一つとして、グループホームにおける世話人の業務の現状と問題点について検討するため、山陰両県の知的障害者グループホームを対象とした実態調査を行うこととしました。

大変お忙しい中とは存じますが、グループホームの世話人のお仕事の、よりよいあり方と、利用者の一層充実した生活の実現への基礎資料としたいと存じますので、何とぞ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、この調査により得た情報は統計処理をし、グループホームや世話人の方が特定できないような形で公表させていただきます。そして、報告書ができましたら送りいたしますのでご活用いただければと考えております。

同封の返信用封筒にて、12月22日（金）までに、ご回答をご投函いただきますように、重ねてよろしくお願いいたします。

末筆となりましたが、貴グループホームの更なるご発展をお祈り申し上げます。

敬具

調査に関するお問い合わせは、下記へどうぞ。

Tel・FAX 0852(32)6312

E-mail jyukou@mail.goo.ne.jp

（島根大学法文学部福祉社会教室

加川 充浩 研究室）

知的障害者グループホーム世話人 実態調査 アンケート

ご回答いただく前にお読みください

この調査票は、グループホームの世話人の方がご回答ください。

ご回答いただいた項目について、具体的な名前(世話人本人、グループホーム名、利用者)を公表することはありません。また、回答者が特定されるようなことはありません。結果は統計的処理を行い、数量的に表します。

回答に当たっては、2006年12月1日現在の状況をお書きください。

ご返信の期限は12月22日(金)です。この用紙を返信用封筒に入れて、ご返信下さい。

回答者(あなた)とグループホームの基本的事項についておたずねします。

年齢	()歳
性別	1 男、2 女
世話人経験年数 (他グループホームでの経験含む)	1 1年未満、 2 1年以上～3年未満 3 3年以上、 4 5年以上
雇用形態	1 常勤、2 嘱託、3 その他
取得資格	1 ホームヘルパー(1～3級) 2 介護福祉士 3 社会福祉士、4 その他
グループホーム定員	()名
入居者性別	1 男性のみ、2 女性のみ、3 男女混合
入居者の年齢	1 全員40歳未満、2 全員40歳以上、3 その他
バックアップ施設職員の数	()名、あなたが勤務するグループホームのバックアップ担当()名
グループホーム所在地	1 島根県内、2 鳥取県内

(1) あなたの日常の業務全体についておたずねします。

【問1-1】現在、実際に多くの時間を割いて行っておられる業務は何ですか。下記の「表1」から、上位5つを選択してください。

順位					
番号					

【問1-2】世話人業務の中で、利用者にとって重要だと考えておられる業務は何ですか。下記の「表1」から、上位5つを選択してください。

順位					
番号					

表1

- 1 家事支援（食事づくり、ゴミ出し等）、2 金銭管理、3 医療に関すること、
 4 身体介護（排泄、食事、入浴等）、5 情緒不安への対応、6 入居者の人間関係づくり
 7 就労(日中活動)の悩みを聞く、8 就労へ向けての支援、9 近所づきあいに関すること
 10 余暇活動支援、11 ホームの管理運営、12 福祉制度利用相談や手続き代行、13 その他

(2) 利用者の抱える問題とそれへの支援者についておたずねします。

【問2-1】利用者のグループホーム内での生活に関する次の5つの項目についておたずねします。あなたの支援の頻度として、当てはまる番号に を付けてください(1つ)。

	よくある	時々ある	あまりない	全くない
寂しさへの支援	1	2	3	4
入居者間の人間関係	1	2	3	4
性について	1	2	3	4
金銭について	1	2	3	4
身体介護	1	2	3	4

【問2-2】問2-1の5つの項目に関して、主に対応（支援）しているのは誰ですか。末尾にある「表2」の中から一人を選んで、カッコ内に番号を書いてください。

寂しさへの支援	()	入居者間の人間関係	()
性について	()	金銭について	()
身体介護	()		

【問3-1】利用者の就労（日中活動）に関する次の4つの項目についておたずねします。あなたの支援の頻度として、当てはまる番号に を付けてください(1つ)。

	よくある	時々ある	あまりない	全くない
就労（日中活動）先での悩みを聞く	1	2	3	4
欠勤への対応	1	2	3	4
転職の支援	1	2	3	4
ハローワークとの連携	1	2	3	4

【問3-2】問3-1の項目に関して、主に対応（支援）しているのは誰ですか。末尾にある「表2」の中から一人を選んで、カッコ内に番号を書いてください。

就労(日中活動)先での悩みを聞く ()	欠勤への対応 ()
転職の支援 ()	ハローワークとの連携 ()

【問4-1】利用者と家族との間のトラブルに関して、あなたに対応することはありますか(1つ)。

- 1 よくある、2 時々ある、3 あまりない、4 全くない

【問4-2】利用者と家族との間のトラブルに関して、主に対応（支援）しているのは誰ですか。末尾にある「表2」の中から2人を選んで、番号を書いてください。

--	--

【問5-1】利用者の余暇活動に関して、あなたに対応することはありますか(行事の紹介等を含みます)(1つ)。

- 1 よくある、2 時々ある、3 あまりない、4 全くない

【問5-2】利用者の余暇活動に関して、主に対応（支援）しているのは誰ですか。末尾にある「表2」の中から2人を選んで、番号を書いてください。

--	--

(3) 世話人業務の負担感とそれへの支援に関しておたずねします。

【問6】世話人業務の負担感についてお聞きします。当てはまるものに を付けてください(1つ)。

- 1 非常に負担を感じる、2 やや負担を感じる、3 あまり感じない、4 全く感じない

【問7】世話人業務を行うに当たって、他者・他機関から支援を受けておられると感じますか(1つ)。

- 1 十分感じられる、2 やや感じられる、3 あまり感じられない、4 全く感じられない

【問8】世話人業務を行うなかで、現在、あなたの支えとなっている人・機関はありますか。末尾にある「表2」の中から2人を選んで、番号を書いてください。

--	--

【問9】今後、あなた自身に必要なと思われる支援や助言は何ですか。支援内容について当てはまるものに を付けてください(2つまで)。

- 1 職務能力の向上の機会(研修等)、2 近所の人の(ちょっとした)手助け
3 就労支援に関する助言、4 医療機関との連携への助言、5 世話人同士の情報交換・支え合い
6 地域生活支援センター(生活相談等)の支援、7 その他

【問10】世話人業務についての困りごと・悩み等があればご自由にお書きください。

[]

表2	1 世話人、2 バックアップ施設職員、3 家族、4 利用者の友人、5 行政機関職員 6 地域生活支援センター等のコーディネーター、7 社会福祉協議会職員、8 近隣住民 9 就労(日中活動)先の職員、10 知的障害者相談員、11 特にない、12 その他
-----------	---

